

2003年10月6日(月)～10月23日(木)

12:00～7:00P.M. 日曜・祝日休館 入場無料

公開審査会

10月9日(木) 5:30～8:00P.M.

オープニングパーティー

10月9日(木) 8:00～9:00P.M.

※10月9日(木)は公開審査会のため、5時以降はご覧いただけません。あらかじめご了承ください。

審査員<敬称略>

飯沢耕太郎 (写真評論家)

葛西薫 (アートディレクター)

金村修 (写真家)

操上和美 (写真家)

大迫修三 (クリエイションギャラリー-G8)

公開の場でグランプリが決まる  
二次審査会を見にきませんか  
10月9日(木) 5:30～8:00P.M. \*要予約



『ひとつぼ展』会期中に行われる公開二次審査会は、どなたでもご覧いただけます。

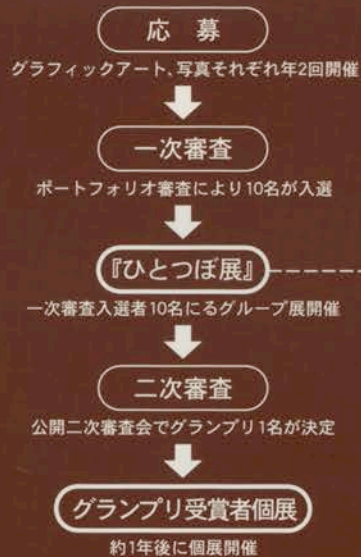
出品者10人が個展開催の権利を明け、作品の説明や個展プランを熱い想いでプレゼンテーションします。その後、審査員による審議の結果、出品者や一般見学者の目の前でグランプリ1名が決定します。誰のどんなところが評価されてグランプリが決定されるのか、ぜひ会場でご覧ください。

見学希望の方は、ガーディアン・ガーデンまでお電話にてご予約ください。9月22日より受け付けています。TEL 03-5568-8818

これまでの公開審査会の様子は、

<http://www.recruit.co.jp/GG/> 「competition」ページをご参照ください。

『ひとつぼ展』は、ガーディアン・ガーデンでの個展開催を最終目標とした公募展です。ポートフォリオによる一次審査を通過した10名の出品者が、グランプリをかけて競います。各自3.3㎡(1.82m×1.82m)のスペースの中で構成した出品作品をもとに、展覧会会期中に出品者と審査員が直接対話し、グランプリを決定する公開二次審査会を実施します。グランプリ獲得者には1年間の制作期間を経た後に、個展開催が約束されます。



約5～6年後に入選者の中から年4名の個展開催

The Second Stage at GG

次回作品募集

第22回グラフィックアート『ひとつぼ展』'03年12月1日(月) 締切  
第22回写真『ひとつぼ展』'03年12月15日(月) 締切

※詳しい募集要項についてはホームページ「ART PARADISE」をご覧ください。ガーディアン・ガーデンまでお問い合わせください。

お問い合わせ ガーディアン・ガーデン

〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 リクルートGINZA7ビルB1  
TEL 03-5568-8818 FAX 03-5568-0512

<http://www.recruit.co.jp/GG/>

ガーディアン・ガーデンとクリエイションギャラリー-G8のホームページ「ART PARADISE」。『ひとつぼ展』の情報や、出品作家の作品などをご紹介します。

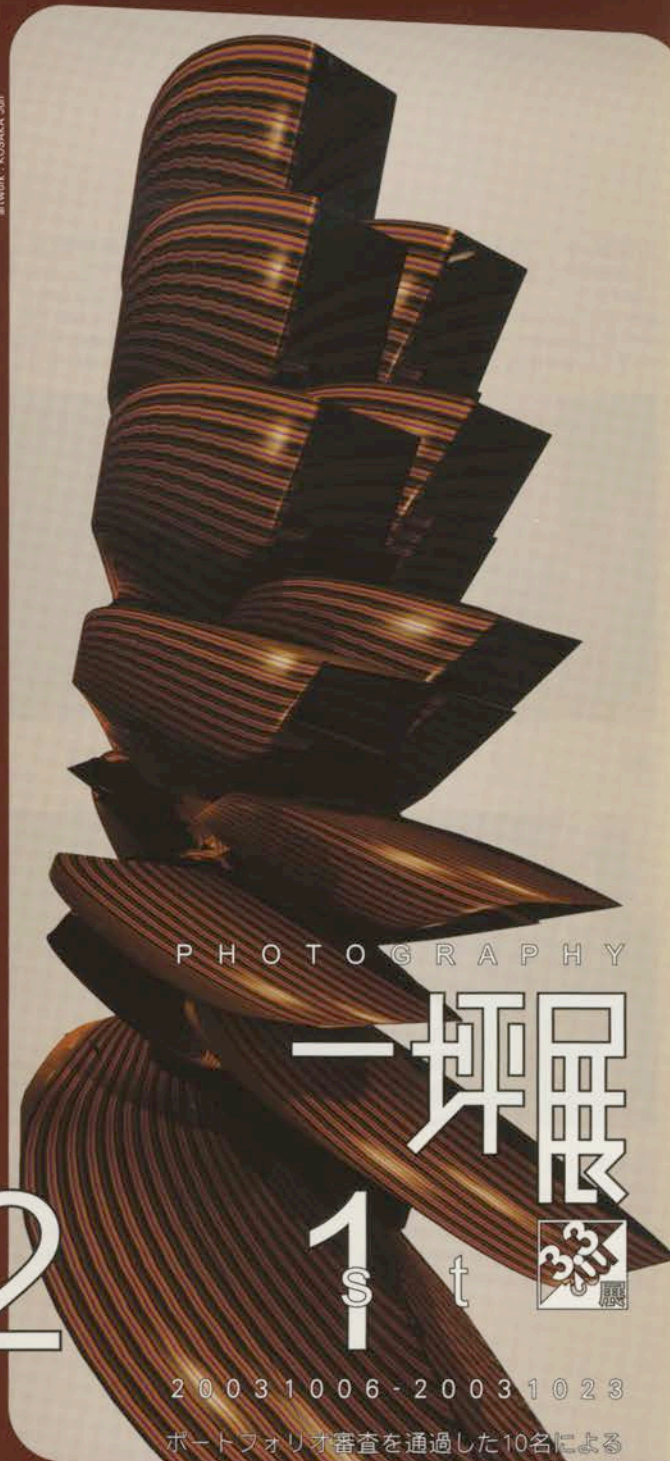
Guardian Garden

PRODUCED BY RECRUIT



リクルートGINZA7ビルの地下1階です。洋菓子ウエストの横の階段を降りて下さい。

artwork: KOSAMA Jun



PHOTOGRAPHY

一坪展

21st

20031006 - 20031023

ポートフォリオ審査を通過した10名による

第21回写真『ひとつぼ展』

明石瞳 Akashi Hitomi  
 1980年生まれ。東京ビジュアルアーツ  
 卒業。フリー  
 『紅い眩迷』  
 見えないものを追いかけて、只今暗の中横糸。  
 テーマは愛。



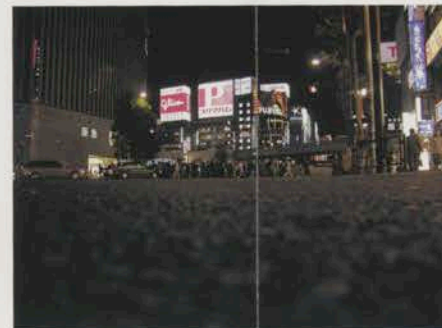
浅原明広 Asahara Akihiro  
 1975年生まれ。京都大学大学院在籍  
 『明鏡止水』  
 非日常から受ける刺激が徐々に少なくなり、作業にも慣れて余裕が生まれると、他にすることもないので、柄にもなく自分と向き合ったりしてみる。  
 キーワード: 砂漠、鏡、空、夜、光



山本菜那 Yamamoto Nana  
 1980年生まれ。東京工芸大学工学部建築学科卒業。  
 アルバイト  
 『うず』  
 最近の不安定な世の中から受ける、はればれとしない気分を、身のまわりの風景から表現したい。



藤田裕美子 Fujita Yumiko  
 1979年生まれ。東北芸術工科大学卒業  
 『DIORAMA』  
 ジオラマを覗くとき、そのディテールから意味を読み取り、全体や部分に対し意味を与え情景の中に入り込んでいく。私たち人間が作ったこの街。愛すべき醜悪なジオラマを組み立てていく。



山崎真弓 Yamazaki Mayumi  
 1979年生まれ。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。アルバイト  
 『続ノ』  
 毎日への思いが今への意識を薄くしてしまう流れこそが、人がいることだとツアーBOXの中で感じていた。一枚の写真に入り始めてきた余計なものをやめるきっかけの作品になってほしい。



第 2 1 回 写 真 『 ひ と つ ぼ 展 』 出 品 者



三田村陽 Mitamura Akira  
 1973年生まれ。大阪芸術大学卒業、京都造形芸術大学大学院修了。カメラマン  
 『避雷-avoiding thunder』  
 主題は段階的に明かされる。そう声になるとたちまち眩しさや烈しさに戦く格好になる。可憐な発色を期待しつつ怖れつつ、一回の出くわしはいつも悦びという謎と訪れる。



北川桃 Kitagawa Momo  
 1981年生まれ。東京工芸大学3年  
 『制服を着る』  
 私は制服が好きです。制服を着て写真を撮ることは、自分を表現するのに一番良い方法でした。



坂口トモユキ Sakaguchi Tomoyuki  
 1969年生まれ。日本写真芸術専門学校2部卒業  
 『二子新地』  
 深夜に自宅近辺を撮影しています。袋小路に出現する家と植物は人工灯によって空間性が強調され、質感が失われます。その情感を排した第三の目でこの世界を再発見します。



富田絵美 Tomita Emi  
 1980年生まれ。日本写真学園II部2年  
 『FEEL』  
 大切なものは失ってから気付いたり。巻き戻してあの時をもう一度。早送りして今から逃げ出したい。でもできないし、今しかないし。誰だってそう いつだってそう それはみんな同じ。



元木美由紀 Motoki Miyuki  
 1981年生まれ。東京造形大学3年  
 『mother farm』  
 牧場で生活を送り、自然に生きて死んでいくといった命の営みを知り、空や草花や動物達の命の声を聞きました。そこで感じたいくつもの想いを、一部だけでも感じて欲しいです。